

地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

1. 事業評価の目的等

みやま市地域公共交通活性化協議会が策定する「生活交通確保維持改善計画」は、国の地域公共交通確保維持改善事業の支援を受けて進めているものです。該当する事業については、毎年度、協議会において事業の実施状況の確認、目標達成状況等の事業評価を行うこととされております。

生活交通確保維持改善計画に位置付けられた補助対象事業について、事業の実施状況の確認、目標達成状況等の評価を行うことによって、補助対象事業がより効果的、効率的に推進されることを目的としています。

2. 事業評価の流れ

- ①「生活交通確保維持改善計画」… 令和5年6月27日協議会にて策定
- ②事業実施… 実施期間：令和5年10月1日～令和6年9月30日
(バス年度は10月から9月までとなっています)
- ③自己評価（一次評価）… 令和7年1月末までに運輸局に報告
- ④二次評価… 各地方運輸局等に設置された第三者評価委員会において、一次評価の結果に対し、客観性・妥当性の検証及び今後に向けてのアドバイスを受けます。

3. 「生活交通確保維持改善計画」一次評価について

昨年度の第1回協議会（令和5年6月27日開催）において承認された「生活交通確保維持改善計画（地域内フィーダー系統確保維持計画）」に基づき運行を行ったコミュニティバス8路線12系統についての事業評価です。

「④事業実施の適切性」については、計画通り運行することができたため、全ての路線についてAと評価しました。

「⑤目標・効果達成状況」については、目標を達成したものはAとし、目標を達成できなかったもので1便あたりの利用者数が2人以上のものはB、1便あたりの利用者数が2人未満のものはCと評価しました。

6み総公第 号
令和7年1月 日

九州運輸局長 殿

住所 福岡県みやま市瀬高町小川5番地
協議会名 みやま市地域公共交通活性化協議会
代表者名 会長 森田 泰平

地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価の提出について

令和7年度地域公共交通確保維持改善事業に伴う事業評価を行いましたので、別添のとおり報告します。

担当部署:みやま市総合政策課公共交通政策係
担当者名:吉開
連絡先:Tel:0944-64-1550
E-mail:kotsu@city.miyama.lg.jp

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月 日

協議会名:	みやま市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	本市では、平成20年4月より高齢者や障がいがある方等を対象に、生活交通手段の確保を目的に、福祉バスを運行していたが、誰もが利用可能な生活交通手段を求める意見が市民より多く寄せられていた。そのため平成30年3月より定時定路線型コミュニティバス「くすっぴー号」(市町村有償運送)の運行を開始した。運行にあたっては、路線バスや鉄道など既存の公共交通機関とも連携を図りながら、各地区と医療機関、商店などの生活目的施設、市役所などの公的機関を結ぶ、利用しやすい公共交通ネットワークの形成を目指しているところである。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:みやま市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ()内は昨年の評価です。	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
みやま市 清水・上庄線	瀬高町の水上～清水～上庄～本郷地域を運行	<ul style="list-style-type: none"> ・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で企画・準備等を行い「無料バスの日」イベントを実施した。 ・利用者や住民向けアンケートを実施し、路線再編を検討した。 ・コミュニティバスのオープンデータ化を構築し、Google Map上で時刻や経路が検索できるようになり、利便性の向上と利用促進を図った。 	A 計画通り事業は適切に実施された。	A (B) 【目標】4人/便 【実績】4.12/便 【目標比】+0.12人 各集落から買い物、通院、県営プール、駅への行き帰りで利用する需要があり、目標を達成することができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・みやま市地域公共交通計画に基づき、コミュニティバスの運行形態について見直しを実施する。 ・利用状況や利用ニーズを分析し、路線やダイヤなど見直しが必要な項目の洗い出しを行い、近隣自治体への路線の延長など検討する。 ・コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系の実証実験を行い、効果検証を行う。
みやま市 瀬高・高田線 (太神・岩田経由)	瀬高町～高田町を太神・岩田地域を経由して運行	<ul style="list-style-type: none"> ・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で企画・準備等を行い「無料バスの日」イベントを実施した。 ・利用者や住民向けアンケートを実施し、路線再編を検討した。 ・コミュニティバスのオープンデータ化を構築し、Google Map上で時刻や経路が検索できるようになり、利便性の向上と利用促進を図った。 	A 計画通り事業は適切に実施された。	B (B) 【目標】4人/便 【実績】3.55人/便 【目標比】-0.45人 買い物や通院、公共施設への行き帰りで利用する需要があり、昨年度より実績は増加したものの、目標には達成しなかった。目的地まで各集落を移動するルートのため、速達性に欠ける路線である。	<ul style="list-style-type: none"> ・みやま市地域公共交通計画に基づき、コミュニティバスの運行形態について見直しを実施する。 ・利用者の利便性向上を図るため、コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系の実証実験を行い、効果検証を行う。
みやま市 高田・瀬高線 (江浦・浜田・大江経由)①	高田町～瀬高町を江浦・浜田・大江地域を経由して運行【車両減価償却費等国庫補助金交付対象】	<ul style="list-style-type: none"> ・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で企画・準備等を行い「無料バスの日」イベントを実施した。 ・利用者や住民向けアンケートを実施し、路線再編を検討した。 ・コミュニティバスのオープンデータ化を構築し、Google Map上で時刻や経路が検索できるようになり、利便性の向上と利用促進を図った。 	A 計画通り事業は適切に実施された。	B (A) 【目標】6人/便 【実績】5.92人/便 【目標比】-0.08人 各集落や県営・市営団地から買い物、通院への行き帰りで利用されている路線である。僅かに目標に届かなかったものの、一定の需要はある。	<ul style="list-style-type: none"> ・みやま市地域公共交通計画に基づき、コミュニティバスの運行形態について見直しを実施する。 ・利用状況や利用ニーズを分析し、路線やダイヤなど見直しが必要な項目の洗い出しを行い、再編見直しの検討をする。 ・コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系の実証実験を行い、効果検証を行う。

みやま市 高田・瀬高線 (江浦・浜田・大江経由)②	高田町～瀬高町を江浦・浜田・大江地域を經由して運行 【車両減価償却費等国庫補助金交付対象】	<ul style="list-style-type: none"> ・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で企画・準備等を行い「無料バスの日」イベントを実施した。 ・利用者や住民向けアンケートを実施し、路線再編を検討した。 ・コミュニティバスのオープンデータ化を構築し、Google Map上で時刻や経路が検索できるようになり、利便性の向上と利用促進を図った。 	A 計画通り事業は適切に実施された。	B (B)	<ul style="list-style-type: none"> 【目標】6人／便 【実績】3.46人／便 【目標比】-2.54人 路線自体が短いため、他の路線で乗り降りされる利用者が多い傾向にあり、目標に達成していない。本路線上には買い物施設や病院等があるため、一定の需要はある。	<ul style="list-style-type: none"> ・みやま市地域公共交通計画に基づき、コミュニティバスの運行形態について見直しを実施する。 ・利用状況や利用ニーズを分析し、路線やダイヤなど見直しが必要な項目の洗い出しを行い、再編見直しの検討をする。 ・コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系の実証実験を行い、効果検証を行う。
みやま市 高田・瀬高線 (国道209号経由)	高田町～瀬高町を国道209号を經由して運行 【車両減価償却費等国庫補助金交付対象】	<ul style="list-style-type: none"> ・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で企画・準備等を行い「無料バスの日」イベントを実施した。 ・利用者や住民向けアンケートを実施し、路線再編を検討した。 ・コミュニティバスのオープンデータ化を構築し、Google Map上で時刻や経路が検索できるようになり、利便性の向上と利用促進を図った。 	A 計画通り事業は適切に実施された。	B (B)	<ul style="list-style-type: none"> 【目標】6人／便 【実績】4.83人／便 【目標比】-1.17人 他の路線に比べ速達性があり、利用者にとって使いやすい路線である。目標達成に向け、移動需要の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・みやま市地域公共交通計画に基づき、コミュニティバスの運行形態について見直しを実施する。 ・利用状況や利用ニーズを分析し、路線やダイヤなど見直しが必要な項目の洗い出しを行い、再編見直しの検討をする。 ・コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系の実証実験を行い、効果検証を行う。
みやま市 山川・瀬高線①	山川町の真弓公民館～瀬高町の市立図書館を国道443号線を經由して運行 【車両減価償却費等国庫補助金交付対象】	<ul style="list-style-type: none"> ・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で企画・準備等を行い「無料バスの日」イベントを実施した。 ・利用者や住民向けアンケートを実施し、路線再編を検討した。 ・コミュニティバスのオープンデータ化を構築し、Google Map上で時刻や経路が検索できるようになり、利便性の向上と利用促進を図った。 	A 計画通り事業は適切に実施された。	A (B)	<ul style="list-style-type: none"> 【目標】7人／便 【実績】7.42人／便 【目標比】+0.42人 コミュニティバス以外に公共交通機関がなく、市内中心部に向かう唯一の手段となっている。午前を中心に、買い物、通院、駅等に行き帰りで利用している方が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・みやま市地域公共交通計画に基づき、コミュニティバスの運行形態について見直しを実施する。 ・利用状況や利用ニーズを分析し、路線やダイヤなど見直しが必要な項目の洗い出しを行い、再編見直しの検討をする。 ・コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系の実証実験を行い、効果検証を行う。

みやま市 山川・瀬高線②	山川町のバイオマスセンター～瀬高町の市立図書館を国道443号を經由して運行 【車両減価償却費等国庫補助金交付対象】	<ul style="list-style-type: none"> ・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で企画・準備等を行い「無料バスの日」イベントを実施した。 ・利用者や住民向けアンケートを実施し、路線再編を検討した。 ・コミュニティバスのオープンデータ化を構築し、Google Map上で時刻や経路が検索できるようになり、利便性の向上と利用促進を図った。 	A	計画通り事業は適切に実施された。	B (A)	<ul style="list-style-type: none"> 【目標】7人／便 【実績】6.66人／便 【目標比】-0.34人 市内中心部に向かう最終便となる。目標には届かなかったが、瀬高方面に向かう公共交通機関がないため、必要な路線となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・みやま市地域公共交通計画に基づき、コミュニティバスの運行形態について見直しを実施する。 ・利用状況や利用ニーズを分析し、路線やダイヤなど見直しが必要な項目の洗い出しを行い、再編見直しの検討をする。 ・コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系の実証実験を行い、効果検証を行う。
みやま市 山川・瀬高線③	瀬高町のJR瀬高駅～山川町の真弓公民館を国道443号を經由して運行 【車両減価償却費等国庫補助金交付対象】	<ul style="list-style-type: none"> ・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で企画・準備等を行い「無料バスの日」イベントを実施した。 ・利用者や住民向けアンケートを実施し、路線再編を検討した。 ・コミュニティバスのオープンデータ化を構築し、Google Map上で時刻や経路が検索できるようになり、利便性の向上と利用促進を図った。 	A	計画通り事業は適切に実施された。	C (C)	<ul style="list-style-type: none"> 【目標】7人／便 【実績】0.99人／便 【目標比】-6.01人 JR瀬高駅から山川方面に向かう最終便である。利用者は少ないが、山川方面に向かう他の公共交通機関がないため、必要な路線となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・みやま市地域公共交通計画に基づき、コミュニティバスの運行形態について見直しを実施する。 ・利用者が低迷しているため、コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系の実証実験を行い、効果検証を行う。
みやま市 高田南部・西部線 (循環)	高田町のあたご苑～高田町の西鉄開駅を循環して運行	<ul style="list-style-type: none"> ・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で企画・準備等を行い「無料バスの日」イベントを実施した。 ・利用者や住民向けアンケートを実施し、路線再編を検討した。 ・コミュニティバスのオープンデータ化を構築し、Google Map上で時刻や経路が検索できるようになり、利便性の向上と利用促進を図った。 	A	計画通り事業は適切に実施された。	B (B)	<ul style="list-style-type: none"> 【目標】4人／便 【実績】2.99人／便 【目標比】-1.01人 高田地区の西側を循環しており、午前中を中心に利用者がいるが、本数が少なく、目的地まで時間を要するなど利便性が低いため、利用者が低迷している路線である。	<ul style="list-style-type: none"> ・みやま市地域公共交通計画に基づき、コミュニティバスの運行形態について見直しを実施する。 ・利用者が低迷しているため、コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系の実証実験を行い、効果検証を行う。

みやま市 山川・高田線 (亀谷・竹飯経由)	高田町の南部及び西部地域をJR渡瀬駅からあたご苑、西竹飯を経由して山川げんきかんまで運行	<ul style="list-style-type: none"> ・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で企画・準備等を行い「無料バスの日」イベントを実施した。 ・利用者や住民向けアンケートを実施し、路線再編を検討した。 ・コミュニティバスのオープンデータ化を構築し、Google Map上で時刻や経路が検索できるようになり、利便性の向上と利用促進を図った。 	A	計画通り事業は適切に実施された。	C (C)	<p>【目標】3人／便 【実績】1.61人／便 【目標比】-1.39人</p> <p>山川・高田地区を東西に結ぶ路線であり、午前中を中心に公共施設や病院へ行き帰りする利用者はいるが、本数が少なく、目的地まで時間を要するなど利便性が低いため、利用者が低迷している路線である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みやま市地域公共交通計画に基づき、コミュニティバスの運行形態について見直しを実施する。 ・利用者が低迷しているため、コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系の実証実験を行い、効果検証を行う。
みやま市 山川・高田線 (田浦・田尻経由)①	高田町の南部及び西部地域をJR渡瀬駅からあたご苑を経由して山川げんきかんまで運行	<ul style="list-style-type: none"> ・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で企画・準備等を行い「無料バスの日」イベントを実施した。 ・利用者や住民向けアンケートを実施し、路線再編を検討した。 ・コミュニティバスのオープンデータ化を構築し、Google Map上で時刻や経路が検索できるようになり、利便性の向上と利用促進を図った。 	A	計画通り事業は適切に実施された。	C (C)	<p>【目標】3人／便 【実績】0.52人／便 【目標比】-2.48人</p> <p>市内山間部を走る路線であり、沿線人口が少ない地域である。本数が少なく、目的地まで時間を要するなど利便性が低いため、利用者が低迷している路線である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みやま市地域公共交通計画に基づき、コミュニティバスの運行形態について見直しを実施する。 ・利用者が低迷しているため、コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系の実証実験を行い、効果検証を行う。
みやま市 山川・高田線 (田浦・田尻経由)②	高田町の南部及び西部地域を山川げんきかんからあたご苑を経由しヨコクラ病院前まで運行	<ul style="list-style-type: none"> ・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。 ・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で企画・準備等を行い「無料バスの日」イベントを実施した。 ・利用者や住民向けアンケートを実施し、路線再編を検討した。 ・コミュニティバスのオープンデータ化を構築し、Google Map上で時刻や経路が検索できるようになり、利便性の向上と利用促進を図った。 	A	計画通り事業は適切に実施された。	A (B)	<p>【目標】3人／便 【実績】4.52人／便 【目標比】+1.52人</p> <p>午前中を中心に通院や駅への行き帰りで利用される方がおり、目標を達成している路線である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みやま市地域公共交通計画に基づき、コミュニティバスの運行形態について見直しを実施する。 ・運行本数が少ないため、利用者の利便性の向上を図るべく、コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系の実証実験を行い、効果検証を行う。